

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	国語 A	国語 B
本校	78	55
広島県	73	59
全国	70.7	54.7

本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の各種学力調査から学校体制で①「読むこと」の「叙述を基にした自分の考えの記述」②「書くこと」「情報の取り出し」にそれぞれに課題があった。そこで、次の4点を工夫して取組を行った。①考えをまとめ、相手に伝える活動②調べたことをまとめる活動③本などの資料を組み合わせて考える活動④漢字練習方法の改善。その結果として、「読むこと」は、平均通過率がA 80% B 55%、「書くこと」は、A 90% B 52%であり、一定の成果がみられた。しかし、「読むこと」の領域において「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」が課題として残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」ことに課題がある。



重点課題

- ・話し合い活動などで、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめて、自分の意見を述べるのが十分にできていない。
- ・文章を書く時、主語と述語がねじれないように気をつけて書いたり、接続語を的確に用いて書いたり、内容に即した言葉を選んで書いたりすることができていない。
- ・国語だけでなく様々な教科で調べ学習を設定し、必要な資料や本を選んで活用する学習は行っているが、十分に成果を上げることができていない。
- ・言語事項における漢字の書きに課題がある。繰り返し何度も書くことや目的を持って書く指導が必要である。



標準学力調査に向けた重点取組

- ・「話すこと・聞くこと」においては、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる力をつけるために、ペア学習やグループ学習などで、相互に自分の意見を多く出し合い、他者の考えに自分の考えを入れてコメントするなどの場を設定する。
- ・「書くこと」においては、目的に応じた短文づくりをする機会を多くつくる。特に、接続詞、主語、述語の関係に注意して、文を正しく書くよう指導する。
- ・「読むこと」においては、目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むために、年間を通して「調べ学習」を計画的に進め、次学年とも連携をし、継続的に指導をする。また、読書活動に意欲を持つように「課題図書読書週間」を設けたり、「読書貯金」の強化月間を設けたり、司書や委員会活動を活用したりする等、継続的に学校全体で取り組む。
- ・漢字練習方法のパターン（3種）を全学年で統一し、漢字を繰り返しノートに練習する。（ノート点検）また、漢字練習方法のパターンを変えたり、学期末に漢字検定をしたりして意欲を継続させることにより漢字の定着を図る。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等 (職員)	・全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。	・課題のあった過去の問題を抽出し、問題を作成する。	検定問題 作成					
児童への取組	「課題図書読書週間」実施	・家庭学習で週 1 回以上の読解問題プリント（表裏） ・チャレンジタイムで、読解問題・言語に関する問題を解く。 ・テスト実施	校内漢字検定 1 学期分		校内漢字検定 2 学期分			校内漢字検定（1 年分）
					【見取り】 全学年で単元末テスト (読む領域) 目標値 80%以上	【検証】標準学力 調査 読む領域 全国平均+5%		

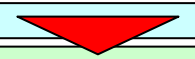
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	算数A	算数B
本校	64	54
広島県	66	54
全国	63.5	51.5

本年度の結果について

○取組の成果と課題
 昨年度の学力調査結果から、①2種類のグラフを関係づけて自分の言葉でわけを説明すること②2次元表のどこが何を表しているのかを理解すること③「量と測定」の領域に課題があった。そこで次の3点を工夫して取組を行った。①様々なグラフを活用できるようになるため、算数科だけでなく理科や社会など教科をつなぎ、多様なグラフから情報を集約し、傾向をまとめる学習を仕組む。②「量と測定」の領域においては、具体物を使用することにより、1目盛の重さの違いを視覚的に理解させたり、立式する時に必要な情報の取舍選択をさせたりする学習を仕組む。③様々なグラフや表がある中で、目的に適したグラフや表を選び、理由を述べたり読み取ったりする活動を取り入れる。これら取組の結果として、「量と測定」の領域の基本的な内容は、昨年度よりも向上し、80%になった。しかし、2種類のグラフを関係づけて、自分の言葉でわけを説明したりすることが依然として課題として残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題
 「円周率の意味について理解すること(30%)」で、公式の定着だけでなく、その公式を活用したり適切に問題を把握したりすることにも課題がある。



重点課題

- 複数の資料から正しく情報を取り出し、それらを関連付けて説明することに課題がある。
- 公式の定着だけでなく、その公式を活用したり適切に問題を把握したりすることに課題がある。



標準学力調査に向けた重点取組

- ・研究構想の「自力解決・練り合いの場面」における指導の工夫を校内研修で再確認する。自力解決では、ただ公式を使わせるのではなく、言葉や式、図などを利用して筋道立てて説明できるように見通しを持たせ指導していく。練り合いの場面では、ペア・グループを活用し、分からない所は質問したり、自分の考えと比べて思いを伝えたりする時間をとるようにする。よい説明の仕方をモデルとして、復唱することで定着を図る。
- ・チャレンジタイムの取組として、活用問題を行う時間を確保し、情報を取り出して整理し、問題に適切に答えられるように指導していく。
- ・長文の問題に対して、問われていることを十分に理解できるようになるため、全学年を通して、「分かっていること(問題を解くために必要な情報)」と「たずねられていること(問題の中心部分)」の取り出しを、日頃の文章問題の読解で身につけさせていく。(ノート点検)
- ・算数科以外でも、社会科や理科、総合的な学習の時間などで、2つ以上のグラフや表から分かることを取り上げ、読み取ったことを説明させる機会を多くつくる。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 ・2学期から全職員で取り組む内容を共有する。 	課題のあった過去の問題を抽出してテストを作成。	授業研究を行う。(提案授業→協議)				<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査結果を基に成果と課題を分析する。 ・授業研究を行う。(提案授業→協議) 	
児童への取組		テスト実施			<ul style="list-style-type: none"> ・3年単元末テスト「重さ」目標値 85% 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年単元末テスト「棒グラフ」目標値 85% ・【検証】標準学力調査 目標値 1~6年 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年単元末テスト「割合」「円と正多角形」目標値 80% ・4年単元末テスト「変わり方」「調べ方と整理の仕方」目標値 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末テスト 目標値 1~6年 80%

チャレンジタイムにおいて、活用問題を解く時間を設定する。情報の読み取り、取り出し、分析を意識した授業

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	理科
本校	66
広島県	63
全国	60.3

本年度の結果について

○取組の成果と課題
 昨年度は、「生命」領域の通過率が20%と低かった。そこで、それぞれの性質の特徴を体感できる活動を取り入れていった。その結果、「生命」領域は、85%と改善され昨年度より高い正答率となった。また、適切な検証方法の選択についても改善が図られている。しかし、観察や実験の技能については40%と課題がある。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題
 領域別にみると、「物質」領域が55%と低く、課題が大きい。また、問題別に見ると記述式の問題の正答率が、40%と低く課題がある。

重点課題

【課題1】

「物質」領域の「実験用具の適切な使用方法」が40%と低かった。こういった実験に対する経験が不足しているため、提示された装置の違いに気づき、適切な用具を選ぶことができなかったことが要因と考えられる。

【課題2】

実験結果を基に分析して考察し、その内容の条件を落とさずに文章に記述することや、実験の結果から分かったことを適用したり応用したりすることに課題がある。

標準学力調査に向けた重点取組

【課題1】

・理科の実験道具の使い方について、初めて指導する際に、正しい使い方の指導だけでなく、視点を変えて、間違った使い方の何が間違っているかについても授業で取り上げ指導していく。また実験や観察について多くの機会を計画的に設定する。

【課題2】

・問題解決の過程に沿った授業づくりを行い、考察の場面で実験の結果と仮説を照らし合わせ仮説の真偽を検討させたり、結論の場面で問題に正対した答えを書かせたりするなど、問題解決の過程における各場面の関係を児童に意識させる。
 ・実験の結果から分かったことを応用したおもちゃづくり等を図工などの教科とつなぎ、実体験を増やし応用力・適用力をつけていく。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
校内研修等 (職員)	<ul style="list-style-type: none"> 児童の通過率の低かった問題の誤答分析を行い、改善策を共有する。 理科指導のポイントの共有。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習に基づいた理科の授業の流れを全校で確認し、授業を行う。 <p>『課題・予想・方法・実験観察・結果・考察・まとめ』の流れで行う。 ノートに整理する。</p>	問題解決学習に基づいた理科の学習の仕方の習慣化。「実態を伴った理解」につながる実験・観察						
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習に基づいた理科の学習の仕方を習慣づける。 実験や観察を大切にし、「実感を伴った理解」が得られる授業を行う。 	フォローアッププリントを活用し、学習の定着を図る。 (チャレンジタイム 金曜日)			【検証】標準学力調査 目標値 3～6年 80%			学年末テスト 目標値 3～6年 80%

質問紙調査 (全国学習状況調査：児童質問紙調査)

(1) 生活・学習

質問番号	質問事項										
(26)	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	40.0	40.0	20.0	0.0						0.0	0.0
広島県(公立)	58.6	28.1	8.4	4.7						0.0	0.1
全国(公立)	57.3	28.9	8.4	5.1						0.1	0.2

児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「テレビのニュース番組やインターネットニュースを見ますか」の項目は、「よく見る」40%「時々見る」を合わせた肯定的評価80%である。これは、広島県、全国の平均を下回っている。	○朝の会において、時事問題について話をしていく。 ○社会科・理科・国語科等の教科や総合的な学習の時間に時事的な内容を計画的に取り入れていく。 ○家庭啓発(学校だより)	6	肯定的評価 85%	児童アンケート調査	2月		

(2) 教科

質問番号	質問事項										
(27)	算数の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	10.0	50.0	30.0	10.0						0.0	0.0
広島県(公立)	34.0	29.7	22.1	14.1						0.1	0.0
全国(公立)	33.9	30.1	21.7	14.2						0.1	0.0

質問番号	質問事項										
(48)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	30.0	40.0	30.0	0.0						0.0	0.0
広島県(公立)	39.5	38.0	18.0	4.3						0.1	0.1
全国(公立)	37.2	38.0	19.1	5.5						0.1	0.1

児童の回答についての課題(現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語							
算数	「算数の勉強は好きですか」の項目は、「当てはまる」10%、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的評価60%である。これは、広島県・全国の平均を下回っている。このことから意欲関心が低いことが課題である。	全学年	肯定的評価 85%	児童アンケート調査	2月		
理科	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますかの項目は、「当てはまる」30%、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的評価70%である。これは、広島県・全国の平均を下回っている。このことから予想や仮説をもとに課題解決への道筋を立てることが十分でないことが課題である。	全学年	肯定的評価 85%	児童アンケート調査	2月		